

第13回大分県ボランティア・NPO推進大会 基調講演 要旨

演題「フードバンクの革新を促す」

NPO法人セカンドハーベスト・ジャパン

理事長 チャールズ・マクジルトン

日時：平成28年8月20日（土）13:10~14:40



・フードバンクを当たり前の制度にしたい

（例）日本の健康保険制度

アメリカでは当たり前ではない。

娘は日本で心臓の手術をした。無料であった。すごい制度。妻と泣いた。

日本に、フードバンクで恩返ししたい。

・フードライフライン、フードセーフティーネット

フードライフライン…食料を配給する基幹となる仕組み

フードセーフティーネット…緊急時にすぐに食料を確保する支援体制の総称

2020年東京オリンピックまでに、世界に誇れるものを構築したい。

・日本の貧困

約2,000万人が貧困線下で生活している。

そのうち200万人が毎日の食事で困っている。

高齢者7割、母子家庭2割、外国人1割。ホームレスは意外と少ない。

・食糧配給をめぐるインフラの課題

ニューヨーク・・・約1,100箇所

香港・・・約500箇所

→東京は、わずか50箇所

・食品ロスと飢餓

食品ロスは減っている。増えているというのは誤解。

食品ロスは飢餓とは関係していない。食品へのアクセスの問題。

・フードバンク活動

世帯を対象か、企業を対象かによって違う。

セカンドハーベスト・ジャパンは両方やっている。

常温・冷蔵・冷凍か、在庫か、賞味期限・消費期限はどうか、どんな物か、どれだけ量があるか。

配布方法・・・企業から受領者へ直接送る、NPOが引き取る、配送する

2002年から全国500以上の団体や施設を訪問。

・ 4つの活動

(1) ハーベストキッチン

暖かい食事を提供。これまで毎週土曜日上野公園で400食程度。
ボランティアの協力あり。

新しく「セントラルキッチン」を作った。1週間に1,000食。
来年は2,000食を目標。配布先が少ない課題あり。

(2) ハーベストパントリー

個人宅を対象に食糧支援を行う。直接手渡か配送
米・味噌・缶詰・調味料などを送る。被災者等へも。

(3) フードバンク活動

企業などからの食品提供

企業は廃棄費用の削減、WIN-WINの関係。

2015年 企業の分別・廃棄コスト節減額 約1億7千万円

2HJが得た食料の市場価格 約5億2千万円

(4) 政策提言活動

・セカンドハーベスト・ジャパンの特色

企業に対して営業はしない。(頭を下げて、食品の提供をお願いしない。)
対等の関係を築く。

→企業との間に対等でない関係を築くと、セカンドハーベスト・ジャパンと食料の受け手の間に施す人・施しを受ける人という関係を築くことになるため。
募金活動はしない。

同意書を作る。(同意書の内容の協議に5年かかった企業も。)

内容：①食品の提供 ②転売をしない ③事故が起きた際の責任の明確化
営利セクターと非営利セクターの間にいる。(両方にかかわっている。)

【例を挙げて】同じコーヒーを売るのでも、スターバックスとドトールは理念ややり方が違う。スターバックスは癒やしの場を作ろうとしてコーヒーが売れる、ドトールはコーヒーそのものを売ろうとしてスタート。

「なぜやっているか」を重視してきた。理念(こうありたい、なぜするのか)をアピールすることで、活動への協力がもらえる。

活動の内容や量にこだわらず、「楽しくやりたい。」「気楽にやりたい。」
価値観、信頼関係が大切。

・最後に

大分でも良いフードバンクを作ってほしい。

将来日本に素晴らしいフードセーフティネットワークが存在し、みんなが満腹で眠れたらいいな。一緒に力を合わせそんな社会を作りたい。

以上